

たしろ たくや さかい まなみ かわなべ ひろき いまい しょうた
 左から田代卓哉先生、酒井真奈美さん、川那辺大樹さん、今井翔太さん



キヤノンは写真甲子園を応援しています。

世界最小
 最軽量*
 一眼レフ
 EOS Kiss X7



2013年度
 写真甲子園
 公式カメラ

*APS-Cサイズ相当の撮像素子を搭載したデジタル一眼レフカメラにおいて。2013年8月1日現在(キヤノン調べ)。
 サイズ:約W116.8×H90.7×D69.4mm。質量:約370g(本体のみ)。

- 約370g*の小型・軽量ボディ*本体のみ。
- 18メガCMOSセンサー&DIGIC 5
- 高速9点オートフォーカス
- 最高約4コマ/秒の連続撮影
- 常用ISO 100~12800(拡張ISO25600)
- ハイブリッド CMOS AF II
- 楽しさ広がる撮影モードが充実
- かんたん快適なタッチパネル

キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

いた。「だからセレクト会議では毎回僕と酒井が大論争。縁の下の力持ちの今井は冷静に聞いていました(笑)。しかし1日目と2日目は慎重になり過ぎ、インパクトを欠く結果に。吹っ切れたのは3日目だ。今年で最後の甲子園となる川那辺さんは「自分の意見を押し通して強



「体育会系のような熱さとパワーを感じた!」と酒井さんが言う通り、写真甲子園は肉体的にもハードな大会だ。1日目は「自然」、2日目は「人間」、最終日は「風土」をテーマに早朝から撮影を敢行。夕方からのセレクト会議で8枚を選び組写真を制作、夜は参加者全員が集合しての発表と審査会。これが3日間繰り返される。

被写体の選択や撮影技術もさることながら、川那辺さんは昨年の経験から「写真の組み合わせの大切さ」を痛感して

「来年も「いい」に帰ってきます!」
 一方で、初出場の今井さんと酒井さんは「とにかく毎日が楽しかった!」と振り返る。「食べ物全部おいしくて、カレーも3杯お代わりしました」と天真爛漫な表情で語る酒井さん。今井さんは「普段人見知りの僕が、他校生や町民に自分から話しかけ自然にふるまえるようになった」と。その変化には帯同した田代卓哉教諭も驚いた。「ホストファミリーの

行突破。そうして選んだ「川那辺ワールド爆発!」(酒井さん)の8枚は、土地の匂いや空気が伝わる作品に仕上がりに、審査員も絶賛。惜しくも優勝は逃したが、東川町の町民が選ぶ特別賞を受賞、副賞に地元の新米60kgが贈られた。「優勝できなかったのは正直悔しい。でも、出せる力をすべて出し切ったの結果だから仕方がない」と川那辺さん。

家族や地元ボランティア、町民の皆さんの優しさに触れたことも彼らを大きく成長させたんだと思う。」
 そして何より、写真を通して生まれた全国の高校生たちとの一体感が忘れられない、と3人は口を揃える。東川町を舞台にひとつの作品を作り上げた「ライバル」というより同志「だ

「帰る場所と友だちができた。来年も絶対出場します!」と意気だぞ」と川那辺さんがエールを送った。



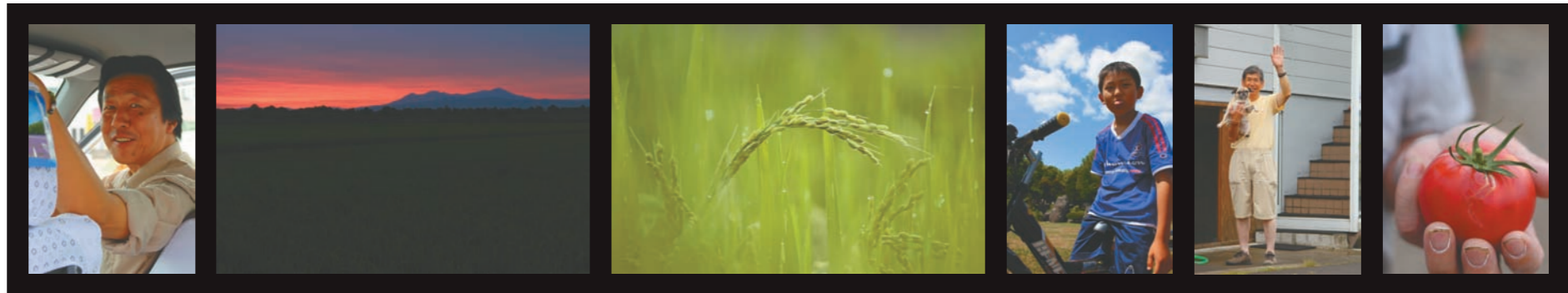
『夏の旅』本戦ファイナル提出作品(8枚組の6枚)

※写真甲子園本戦提出作品はEOS Kiss X7で撮影されました。



『夏の旅』本戦ファイナル提出作品(8枚組の6枚)

※写真甲子園本戦提出作品はEOS Kiss X7で撮影されました。



第20回全国高等学校写真選手権大会
写真甲子園 2013

忘れられない同志たちとの一体感

東京都立小石川中等教育学校(東京都文京区)
 今年、20周年を迎えた「写真甲子園」。北海道東川町を舞台に、高校生が3人1組となって写真を撮り、組写真の出来栄を競う大会だ。本年度は全国から過去最多の522校が応募、最激戦区の関東ブロックからは4校が選出された。そのひとつ、中高一貫制の都立小石川中等教育学校は昨年に続く2度目の出場。写真部のない同校で「物理研究会写真班」として活動するメンバーは、昨年涙のリベンジを誓った川那辺大樹さん(6年生)と、今年新たに加わった今井翔太さん(5年生)、酒井真奈美さん(4年生)。応募締切直前までテーマを絞り切れず悩んだ3人だったが、驚異の集中力で「人生を足にしたとえた」抒情的な作品を完成。8月6日(火)から9日(金)に行われた本戦への出場を果たした。